

写真展に出品してみませんか？

セラミックスに関する顕微鏡写真展は、顕微鏡写真撮影技術の向上を目的として、1976年に第1回目が開催されて以来、次回で32回目を迎えます。初期の頃は、入選作がセラミックス誌に掲載されており賞の設定はありませんでした。1990年からセラモグラフィック賞として表彰されるようになり、2000年以降は学術写真賞と名称を変え、現在に至っています。これまで多くの方々から出品していただきました。過去5年間(2002-2006年)の出品数は、順に33点、37点、30点、32点、17点です。もっと多くの会員の皆様に写真展のことを知ってもらいたいと思い、Grain Boundaryの1ページを頂きました。

写真展には、セラミックスを撮影したものであれば、電子顕微鏡に限らず光学顕微鏡やプローブ顕微鏡など顕微鏡と名のつく装置で撮影した写真であれば出品することができるのはご存知でしたか？写真と写真に関する説明文(800字以内)をA4サイズの用紙に書いて、日本セラミックス協会までお送りください。申し込み方法の詳細は、本誌10月号に写真展募集案内として掲載しましたのでぜひご覧ください。今年度の申し込み締切日は2007年1月25日です。出品された写真はすべて予稿集に掲載され、年会会場にて展示されます。また作品は慎重に審査され、優秀な作品が数点(2006年は最優秀賞2件、優秀賞4件)選出され、日本セラミックス協会会長から表彰されます。授賞式は、年会パーティー会場にて行われ、最優秀作品の代表者はパーティーに招待されます。過去の優秀作品は、協会ホームページで見ることができます(下記URL参照)。

2005年年会(岡山)での写真展の様子



写真賞ホームページ: http://www.ceramic.or.jp/ig-nenkai/shashin_sho/index.htm

日本セラミックス協会学術写真賞選考委員会の佐々木優吉前委員長にお話を伺いました。

—応募作品作りで大切なことは何ですか？

委員長: 写真そのものの像質などはもちろん重要です。ただ、条件によっては、像質は高くなくても学術的価値の高いものもあると思います。学術写真賞は募集要項にあるように学術的・技術的に優れた写真を表彰するものなので、これらを説明文でうまく表現してください。

—説明文を書くコツはありますか？

委員長: 写真の説明文で誇張した表現やより良く見せることばかりに気を配らない方がいいですね。自分の作品がより良く評価されるための表現方法を工夫すると良いと思います。選考委員は全ての作品に目を通すので、自分の作品に対する十分な説明と適切な表現で、選考委員の目を応募作品のアピールポイントに誘導することが必要ですね。写真をわかりやすくするために、挿絵や説明図を使っても良いと思います。各作品の持ち味をじっくり審査するため、選考委員会では熱い議論をしながら、優秀作品を決めていきます。

—最後に一言。

委員長: 多くのセラミストが顕微鏡写真を撮影していると思います。どしどしご応募いただき、写真展を盛り上げていきましょう。

—ありがとうございました。

○ 学術写真賞受賞者からの談話

応募の動機は、走査型電子顕微鏡で観察した非常に面白い現象をうまく写真に撮って写真展に出展すれば、きっとみなさんに興味を持ってもらえると思ったことです。年会パーティーでの受賞式や写真展会場で写真を見て下さった方々からお声をかけてもらったことがとても印象に残っています。また面白い材料ができたらぜひ写真を撮って応募したいと思っています。(東工大 瀬川浩代さん(2006年日本セラミックス協会学術写真賞最優秀賞受賞))